

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	46708000384
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホーム やまぶき
訪問調査日	平成 21 年 11 月 11 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670800384
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホーム やまぶき
所在地	鹿児島県出水市上鯖淵48番1 (電話) 0996-63-4176

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年11月11日	評価確定日	平成21年12月30日

【情報提供票より】(平成21年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	7,350 円 (施設維持費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	脇本病院 ・ 楠元内科医院 ・ おがたクリニック ・ 村岡歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR出水駅より徒歩数分のところにある3階建ての建物は、明るいベージュ色で遠くからでもわかるように看板が設置されている。以前デパートだった建物を改築し、1階と3階が同法人が運営する有料老人ホームで、2階にグループホームが開設されている。職員は「声かけ助け合い、皆で作る地域の輪」という地域密着の理念を掲げ、散歩時や買い物などで地域の方々とふれあうことを心がけ、地域の方に三味線や歌、踊りなどのボランティアにきて頂き交流する機会を作っている。また、災害時の緊急避難場所として2階のスペースを提供するなど地域との繋がりが強くなっていることが窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は職員に報告されている。理念の共有と日々の取り組みでは、昨年に地域密着型の理念を職員と話し合い作成し玄関に掲げ、部署会議で理念の方向性について話し合うなど取り組んでいる。同業者との交流は、地区の連絡協議会主催の交流会に参加したり、他の事業所と1日職員を交替して研修を行うなど改善されている。重度化や終末期に向けた方針の共有では、事業所としての指針を作成し家族に説明している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表に、一ヶ月かけて職員が書き入れる方法で行い、最後に管理者がまとめていく。職員はケアの振り返りの機会と捉え、利用者とはふれあう時間をもっと作って行きたいという意見が上がることで、省ける業務を見直すなどの改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は年6回定期的に開催され、事業所の現状、ヒヤリハットや事故、行事報告後に参加者の意見交換が行なわれている。地域代表から、地域の行事予定や来所してもらえらるボランティアの情報を得る事でケアに活かしたり、自治会長の協力で避難訓練に消防団の参加が得られるなど、運営にも活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見や要望を表せる機会は、運営推進会議や年1回開催される家族会、面会時や意見箱等である。特に苦情等は上がらず、職員は家族が面会に来られた時の会話にも気を配っている。家族以外の面会者を知りたいという意見から、面会簿をノートから一枚ずつの用紙にしたり、漢方薬は湯に溶かすと良いという会話を申し送りノートに記載し、職員と話し合いすぐに実行に移すなど、ケアや運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、総会ではやまぶきの便りを渡し様子を知ってもらっている。地域も高齢化が進み行事も少く、事業所で開く夏祭りやクリスマス会などに、地域の方も参加し交流している。中学校の職場体験なども受け入れている他、地域の三味線や歌のボランティアなどにも来てもらっている。老人ホームを含めてここが一つのコミュニティとなっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念から、地域密着型サービスを意識した「声かけ助け合い、皆で作る地域の輪」という内容に職員と話し合い事業所独自の理念に作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のケアの中で理念を意識できるように玄関に大きく掲げ、毎月の部署会議では、理念について共有できるように話し合っている。職員は理念を意識して、利用者と地域の方が声をかけあえるように間を取りもっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、出席した総会では事業所の便りを配り様子を知らせている。地域も高齢化が進み行事も少なくなっており、事業所で行う夏祭りに地域の方にも参加してもらっている。台風や水害時には2階を地域の避難場所として提供しており地域の方々からは喜ばれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は職員に報告されている。自己評価は、評価表に職員が書き入れる方法で行い、最後に管理者がまとめている。職員から利用者とのふれあう時間をもっと多くしたい、という意見が上がり、省ける業務を見直すなどの改善に取り組んでいる。	○	自己評価を行う上で職員のケアの振り返りの機会と捉え、一人ひとりが関わることでサービスの質の向上に繋がるように工夫されることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年6回定期的に開催され、事業所の現状報告や行事報告後に参加者の意見交換を行なっている。地域代表から地域の行事予定や来所してもらえらるボランティアの情報を得てケアに活かしたり、自治会長の協力で避難訓練に消防団が参加するなど、運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類や報告書を直接窓口を持参し、連絡や相談、情報交換を行なっている。包括支援センター職員からの訪問があり、相談を行ないながらサービスの向上に繋がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員手書きの「やまぶきだより」は年4回発行している。利用者の日頃の様子の写真、新しい職員紹介、行事予定が記載され、金銭出納帳のコピー、領収書、請求書と一緒に送付している。家族の面会時には、健康状態などを報告すると共に、出納帳の確認印やサインを貰っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族が面会時に意見や要望を言いやすいように配慮し、どんなささいな会話からでも家族の要望を汲み取れるようにしている。漢方薬はお湯で溶かすと良いという会話から、すぐに申し送りノートに記載し職員と話し合い実行に移すなど反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は行わず、馴染みの職員によるケアが受けられるように配慮している。新しい職員には、新人研修マニュアルで研修を行い、顔を覚えてもらえるように寄り添うことを指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に学習委員会(栄養管理・文化レク・学習・美化・感染・安全・身体拘束・検診・消防)があり、2ヶ月に1回ある学習会に参加した担当職員が伝達講習を行なっている。管理者が職員と面談を行い個々の目標を確認しているので、それぞれにあった外部研修を勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川薩・出水地区連絡協議会の研修会には、管理者や職員も参加している。また、他の事業所と職員を1日交替させて研修させるなどの取り組みも行い、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅から入所される場合には、必ず本人と家族に見学に来てもらい雰囲気を感じてもらっている。病院からの場合には、こちらから訪問している。入所後は、家族の面会を多くしてもらったり、外出や外泊をして家族から見放されたと思われないように協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野のちまき作りや梅干作りなどを教わりながら一緒に行ない、玄関に飾る習字を書いて頂いた時には感謝の言葉を伝えている。一緒に過ごす中で利用者から労わりや励ましの言葉を頂くこともあり支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所後は、日常の会話の中から思いを把握するように努めている。特に入浴時職員は、ゆっくり会話しながら支援しており、そこでの把握を連絡ノートに記入している。毎月の部署会議では、担当者が中心となり職員の気づきを話あっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会に合わせて、本人、計画作成担当者、職員、看護師が参加し担当者会議が開かれている。家族が参加出来ない時や遠方の方には、電話で意向を確認すると共に、必要であれば医師の意見書も参考にして介護計画書が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月職員で行い、ケアチェック表で3ヶ月に1回の見直しを行なっている。状態に変化が生じた時や家族の要望があった時、退院時などには話し合っ新たな計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、往診や看護師による日々の健康管理が行なわれている。また、病院受診の付き添いや他の施設への面会、美容室への送迎など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。協力病院から2週間に1回の定期往診があり、看護師が記録している往診経過記録で情報を共有している。他科受診は家族にお願いしており、内容は電話で確認している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応の指針も作成され、家族の意向があれば看取りまで行うことができる。職員の夜間帯の不安も、ターミナルケアの勉強会を行う事で解消すると共に、家族間での意見を一致して協力を得られるようにし、主治医、家族、看護師、職員と話し合い方針を共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月、接遇委員会がありプライバシーに関する勉強会も行っている。管理者は、職員が感情を出しているのに気づいた時は、その場で指導するようにしている。写真掲載は家族の了解を得ており、個人の記録物も適正な場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況や体調に合わせ、起床、就寝時間、入浴、レクリエーションの参加の有無など一人ひとりのペースを大切にしている。また、日課にしている1日1回の散歩、買い物などの希望には個別で対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間分の献立を、利用者の希望や菜園で採れる野菜の状況を見ながら立てている。利用者は、一人ひとりの力量に応じて野菜の下ごしらえや野菜切り、テーブル拭き、茶碗すすぎなどを行なっている。誕生日には、本人の好きなものを提供し、手作りケーキでお祝いするため楽しみの一つとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木曜日以外を入浴日とし、ゆったりと入浴できるように利用者のペースに合わせ、会話を楽しみながら歌を歌ったりとふれあう機会としている。拒否される方には、職員が連携し声かけしたり電話作戦を用いたり工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴やできる力を活かし、洗濯物干し、たたみ、野菜の皮むき、テーブル拭き、買い物の荷物持ちなどの役割をもってもらい、菜園での野菜作り、移動図書館、書道、塗り絵、生け花教室、ドライブ、花見、などで楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、車椅子の利用者も一緒に散歩、近所の個人商店へ買い物、園庭の菜園へ草取りや収穫などに出かけたりしている他、希望があれば、個別プランとして他の施設への面会や墓参りなどの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口にセンサーを取り付けたこともあったが、職員の注意力が低下することを考えはらずしており、今は職員の見守りを強化する事で対応している。玄関に行くまでに他の施設の職員の目もあり、外に出て行かれた時の協力体制はできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の法人施設と合同の訓練は、消防署の指導の下に、防火訓練、救命訓練、昼夜想定避難訓練などを交替で実施している。訓練には地域の消防団にも参加してもらっている。また、月1回、避難誘導の自主訓練を行い、地震マニュアルも作成している。備蓄は法人施設と一緒にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量はチェックされ記録されている。栄養バランスは、法人の栄養士からのアドバイスを受けている。食事形態は利用者の状態に応じて、おかゆやとろみをつけるなど個々に対応している。毎月1回の体重測定を行い管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした空間に台所とリビングが一對となっており、廊下も広く、壁には利用者の作品が掛けられている。小上がりの畳には炬燵がおかれ、その前にはソファがいくつか並び利用者は、思い思いの場所で過ごしている。台所からは、ご飯の炊ける匂いや包丁の音が聞こえほっとする瞬間である。リビングのテーブルには利用者が活けた季節の花が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとしていて、ベットが備え付けられているが、クローゼットがない部屋には、ダンスも付いている。利用者はお気に入りの場所にベットを置き、机や椅子、籐ソファ、テレビ、時計などの使い慣れたものが持ち込まれ、ぬいぐるみや大切な写真が飾られ、その人らしい居室となっている。		